遊楽 彩祭

三谷市民文化振興財団ニュース

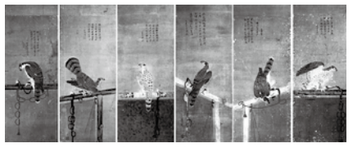
イベント情報

敦博コレクション名品メドレー・ギャラリー3rd　敦賀町絵師の系譜Ⅰ

1月12日(木)～2月5日(日)　10：00～17：00　敦賀市立博物館（敦賀市相生町）

湊町として栄えた敦賀では、多くの絵師が活躍しました。橋本長兵衛は敦賀の鷹画師として名を知られ、その2代目の作品は小浜藩士酒井忠勝により日光東照宮にも納められました。そのほか、近代に活躍した町絵師の作品、近代日本画に大きな足跡を残した幸野楳嶺の作品も紹介します。

入場料：大人 200円(150円)、
子ども 50円(30円)
( )は20名以上の団体料金
㊐敦賀市立博物館　☎0770-25-7033



▲初代橋本長兵衛筆「架鷹図六曲屏風」

若狭高浜ひなまつり

2月15日(水)～3月3日(土)
本町商店街周辺（大飯郡高浜町）

各商店や一般の家庭が、豪華絢爛な段飾りや江戸時代のひな人形など約100点を展示します。高浜のまちなかを散策しながら、地元の人との触れ合いも楽しんでみてください！
※上記内容は、変更になる可能性がありますので、詳細はお問い合わせください。

無料休憩所、駐車場有
㊐高浜町 まちづくり課　☎0770-72-7705　岩井

高橋竹童公演　魂の津軽三味線 津軽の想い

2月26日(日)開演 14：00（開場 13：30）越前市いまだて芸術館（越前市粟田部町）

高橋竹童は、初代高橋竹山の直弟子である高橋竹栄に師事。更に19歳で津軽三味線の大家・初代高橋竹山に師事し最後の内弟子となりました。竹山譲りの豊かな音楽性を継承するとともに、奥行きある演奏の深い叙情性には定評があり、豪快な音締め、軽妙洒脱な舞台運びでオリジナルなスタイルを創出しています。若々しく豪快な演奏をお楽しみください。

入場料：一般 2,500円（2,000円）、高校生以下 1,200円（1,000円）（ ）は前売り券
㊐越前市いまだて芸術館　☎0778-42-2700

第4回鯖江市美術展

3月3日(土)～11日(日)
鯖江市嚮陽会館、鯖江商工会議所 ギャラリー新、鯖江市まなべの館（鯖江市）

鯖江市の美術文化の向上を図り、市民に親しまれる美術の祭典となることを目的として第4回鯖江市美術展を開催します。また、関連事業として、「気がるにあーと展」を併せて実施します。こちらは子どもから大人まで誰でも参加でき、個性溢れるはがきサイズの作品が並びます。

入場料：無料　㊐鯖江市教育委員会文化課　☎0778-53-2257

第27回ふくい春まつり ～越前時代行列～

4月14日(土)【予定】
福井城址（福井県庁）～さくら通り～ JR福井駅西口

福井の春を彩る一大祭事「ふくい春まつり」が今年も春の観光シーズンにあわせ盛大に開催されます。今年で27回目を迎える「越前時代行列」は来る4月14日（土）に開催されます。武者行列が福井の中心市街地を練り歩き、荘厳かつ優雅な時代絵巻を繰り広げます。

㊐ふくい春まつり実行委員会（福井商工会議所地域事業課）
☎0776-33-8253　E-mail：jigyou@fcci.or.jp

財団法人　三谷市民文化振興財団
〒910-8571 福井県福井市豊島1-3-1　三谷ビル
TEL：0776-20-3188　FAX：0776-20-3306

2011年12月発行　・このニュースに関するお問い合わせは、☎0776-33-7571（株)コミネットまで

YURAKU SAISAI

ふくいの無形文化財

上野の盆踊り　8月15日

榮泉寺境内の櫓に地元の「盆若衆」らが列を成して歌いながら集結。「どどら踊り」から始まって「千本搗き」で終わるという決められた順通りに伝統的な踊りが展開される。蓑を身につけた「ミノムシ」が会場の世話役をするなど、独特の仮装も特徴の一つ。楽器は使わず、地唄と合いの手のみという昔ながらのスタイルで、素朴ながらも人々の熱気を感じさせる祭りが継承されている。

（南越前町）

ふるさとめぐり

第四回　若狭町

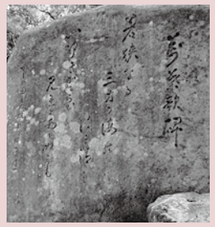
伝説

… 蛇神さん（新道池の谷）…

300年程前の話。新道の山へヨモギを採りに行ったお石という娘が、汗をかいたので池で顔を洗った。ふと水面に映った自分の顔を見てみると、どうしたことか顔中ウロコだらけになっていた。これを悲しんだお石は、そのまま池に身を投げてしまった。『お石に会いたければ、池に赤飯を入れろ』。このお告げを夢の中で聞いたお石の両親が赤飯を池に投げ入れると、大蛇の姿に変わり果てたお石が池から現れたという。

歌碑

若狭なる 三方の海の はま清み
いゆきかえらひ 見れどあかぬかも



8世紀はじめに詠まれた、万葉集の一つ。北陸の旅人が京からの帰りに、箱庭のような美しい三方湖の景色を表現した。「若狭の三方向を湖に囲まれた砂浜はとても清らか。行ったり来たりして、どんな方向から眺めても見飽きることがなく、この場を離れがたい。」

歌碑に会いに行く

三方石観世音参道庭園 洗心園内

■問合せ先
三方石観世音　☎0770-45-0017
〒919-1303 福井県三方上中郡若狭町三方22-1

国指定伝統工芸品および県指定郷土工芸品「水引き細工」
全国の6割をシェアしている大野の水引き細工。丈夫でコシのある越前和紙から作られている。

財団法人 三谷市民文化振興財団
助成団体募集!!

募集期間：2012年5月1日～6月20日

財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2012年度の助成団体の募集を行います。

▶募集の要領

●助成の対象分野
- ボランティア活動
- スポーツ活動
- 市民文化活動

●助成の対象となる団体

■営利を目的としない次の条件を満たす団体
1. 福井県内で活動している団体
2. 会員が5名以上の団体
3. 設立1年を経過している団体
（2011年4月以前に設立したもの）
4. 特定の資格・経歴等の条件を必要としない、個人で加入できる民間の団体

●助成金額　1件あたり約20～30万円

●応募締切日　2012年6月20日
（当日消印有効ですが、なるべく早めに提出ください。）

●結果連絡　選考員会による審査で決定し、2012年7月末までに団体代表宛に連絡いたします。
（採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。）

●助成金贈呈時期　8月上旬（日時は後日連絡いたします。）

上記より詳しい募集要領がございます。
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

まずはお問い合わせを！

★ホームページから募集要領を読む
三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス
http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html
または検索エンジンで↓

三谷市民文化振興財団　検索　クリック

★お電話で募集要領を取り寄せる
☎ 0776-20-3188 ㈶ 三谷市民文化振興財団

三谷市民文化振興財団の助成団体

福井市

県内各地から奉納舞のオファー。巫女の舞を身近に
「お天王さん神楽保存会」

■連絡先　お天王さん神楽保存会（神楽子ども教室）　☎0776-36-1311

福井祇園祭で時代行列が60年振りに復活するのと共に、出発式にて巫女の舞を納めようと、平成12年に地元の壮年会が子どもらを集めて結成した。壮年会で「子ども相撲」を担当していた高橋誠一郎さんは、巫女の舞を他の宮司から習うなどし、これを子どもたちに伝えている。毎年2月頃に巫女を募集し、3月から稽古が始まり、その年の秋までに行われる様々な祭りに参加する。「浦安の舞」を中心に、巫女の舞が舞えるようになるまでには最低でも2カ月半を要するが、今まで一人も脱落者はいなかったという。それは、稽古を始める前に「代役はいない」と子どもたちにプレッシャーをかけ、向上心を保たせるのが秘訣となっているようだ。子どもたちも巫女の舞を舞えることが自信に繋がり、伝統文化の奥深さを学ぶことが、地域全体の絆を深める一因にもなっている。

大野市

子どもの成長を願う花桃で、観光客を温かく出迎える
「越前おおの九頭竜 花桃回廊実行委員会」

■連絡先　越前おおの九頭竜 花桃回廊実行委員会事務局　中村携帯☎090-3292-2174

来年の中部縦貫自動車道のインター開通にともない、福井の玄関口である大野市和泉地区を花桃で埋め尽くし、来県者を出迎えようとする取り組みを始めた「花桃回廊実行委員会」。植樹するエリアは西勝原～下半原までの約15㎞。ここに毎年500本ずつ、3年を掛けて1500本の花桃を植える予定だ。イベントは平成24年5月で最後の3年目を迎える。桜の時期が終わった頃、花桃が九頭竜湖をめがけて順番に色づき、絶景の花見スポットになることだろう。このイベントに参加した人は、それぞれに自分の植えた花桃に愛着を持ち、雪囲いや肥料などの手入れを行うボランティアになる人も少なくないそう。「和泉地区が皆の憩いの場になり、何度も訪れたいと思えるような場所になってほしい」と、実行委員会の中村健次さんは語る。

ブンカのカガミ

檜三味線作りと演奏を通して、出会う人々と触れ合う演奏家
野村深山

野村深山さんは、木曽檜で三味線を作り、作詞作曲も手がけるミュージシャン。檜のほか、桜や福井の美山杉を使った三味線も自宅に並んでいる。自作の三味線で演奏するのが野村流。黒のTシャツと革ジャンを羽織り、曲によっては足首に鈴を付け、歌声を聴かせてくれる。ひとたび音色が響き渡ると、観客はステージ上の希有な演奏家から眼を離すことができなくなる。これまで耳にしていた三味線の音色と奏者のイメージを大きく覆されるからだ。

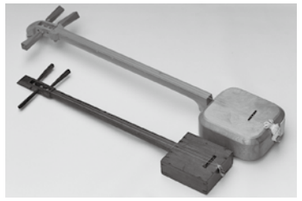
野村さんは作り方や弾き方を誰かに教わったわけではない。会社社長の座を捨て、40代で三味線の世界へ転身。独学を重ね、人との出会いからプロとしてCDデビューを果たした。著名人に教えるなど、華やかな音楽業界で活躍していた野村さんだが、還暦を迎えた6年前に突然、福井市鮎川へ移住する。なぜ、福井だったのだろうか？「ものすごいスピードで三味線人生を過ごしてきました。国内外を駆け巡り、豪華客船の中で演奏もした。しかしそんな生活は体に負担がくるものでね。そのころ縁あって娘が敦賀に嫁ぎました。孫の誕生の際、越前海岸をドライブしたところ、驚くほど景色が美しくて！　世界を知る私ですが、これほど綺麗な海岸線を見たことがなかった。ここで余生を送るのもいいと感じたのがきっかけかな」。

福井へ移住して取り組んだのは、坂井市竹田地区での三味線作り講座。現在は、国見中学校の生徒に演奏の指導をする傍ら、東京へ通い福祉施設や学校へ、またタイのバンコクへも足を運んで活動を続けている。「移住後変わったのは曲調かな。日本海を眺めていて『なんて男性的でかっこいいんだ！』と感動して。それから自然と曲に力強さが出るようになったね」。

独学で創り出した檜三味線というジャンル。三味線となる木材に、作ろうとする生徒に、使われる彫刻刀に、ひらめいた曲と歌詞に、聴きに来る観客に、そして自らが創った檜三味線に――その世界すべてに愛情を注ぐ野村さん。「曲や弾き方に国境はないんだよ」とさらりと述べてくれた。

●のむら・しんざん／1945年群馬県生まれ。1990年津軽三味線全国大会で審査員特別賞を受賞。処女作「アラビアのじょんから節」クラシック曲「剣の舞」などを発表。

教室生たちは鋭い彫刻刀で木を彫り出す。「今まで誰もけがをしたことがない、それが自慢だよ」と野村さん。



初代は素麺の空き箱。試行錯誤から滑らかで美しい檜三味線を生み出す。形もさまざまだ。